

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆10月も全国的に高温傾向、冬の寒さは「平年並み」 気象庁3カ月予報

・気象庁は向こう3カ月(10～12月)の天候の見通しを発表した。10月は全国的に平年より気温が高くなり、初旬は30度以上の真夏日を観測する可能性がある。引き続き熱中症に注意するよう呼びかけた。10月の気温は東日本や西日本で平年より高くなる確率が60%、北日本で50%と予想。11月中のいずれかの時期に急に気温が下がるとみている。

◆企業版ふるさと納税が最多 24年度に631億円

・企業が2024年度に「企業版ふるさと納税」制度を利用して自治体へ寄付した額は、約631億4千万円だった。前年度比1.3倍。寄付件数は1.3倍の1万8457件で、金額、件数とも制度が始まった16年度以降の最多を更新した。内閣府が発表。担当者は「制度の周知が進んだ結果」とみている。

◆給料目減り3年で4%超、総裁選争点に 経済界「複数年賃上げ」探る

・2022年度以降のインフレ局面で日本の実質賃金の累計の落ち込みがリーマン・ショックの時に近い下げ幅となっている。24、25年と続いた5%を超える歴史的な賃上げでも物価の伸びには追いつかず、会社員らの給料は目減りしている。経済界は来春の労使交渉で、複数年を見据えた「継続的な賃上げ」を目標に掲げる方針。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆8月粗鋼生産3.4%減 5カ月連続で減少

・日本鉄鋼連盟は8月の国内粗鋼生産量が前年同月比3.4%減の663万6000トンだったと発表。5カ月連続の減少となった。中国の過剰生産による市況悪化が常態化しつつある。国内需要も人手不足などによる建設工事の遅れで低迷している。高炉でつくる「転炉鋼」は3.6%減の511万4000トンと5カ月連続でマイナスとなった。

◆国発注の土木工事に「夏休み」 国交省が仕様書明記、熱中症対策で推奨

・国土交通省は地方整備局発注の全国の土木工事で7～8月に「夏休み」を可能にする。工事を休む必要性を受注者が国と協議できると発注仕様書に明記する。休み中は工事の準備などに充て、状況に応じて工期延長も認める。建設業に多い熱中症被害を防ぐ取り組みとして民間工事への波及を狙う。

◆【2026年度概算要求】人材確保、工業高校生らへのPR策を検討へ

・国土交通省と厚生労働省は2026年度の概算要求に、建設業の人材確保・育成に取り組むための措置を盛り込んだ。建設業技能者において、60歳以上の割合が約4分の1を占める一方で29歳以下が約12%に留まっている中、若者や女性の入職に重点を置く。建設キャリアアップシステム(CCUS)も引き続き両省で連携して活用を促進する。

《 注目商品 》

■パロマ、レンジフード連動機能搭載 テーブルコンログランドシェフ プレミアム

・コンロの点火・消火に連動してレンジフードが自動でオン・オフする「レンジフード連動機能」を、テーブルコンロとして業界で初めて搭載。調理中のレンジフード操作の手間が減り、消し忘れによる電気の無駄使いを削減。天板には ハイパーガラスコートトップを採用。



■高さ13m、幅6mまで対応するアルミ製の室外機置場

・森田アルミ工業は建物の外壁に取り付ける室外機置場「U-bo(ウーボ)」の受注を開始。木造、RC、ALCパネルの壁に地上から最大13mの高さまで、ユニットを連結することで最大6mの幅まで室外機を複数台設置可能。



■LIXIL、レイアウトフリーな人工木デッキ

・5つのモジュールを組み合わせるウッドデッキシリーズ「Module Garden(モジュールガーデン)」を発売。90cm幅のデッキモジュールやフレームを並べてデッキを形成。デッキ上には高さ約30cmで統一されたボックス、ベンチ、レールなどを自由にレイアウト。

